

厳冬のサロベツ原野

最果ての厳しい冬を体験する

この公園を訪れる人は春から夏にかけて多く、真冬に訪れる人は少ない。
スノーシューもクロスカントリースキーも、この公園で楽しむ人はまだ僅かである。
しかし、厳寒な冬でも自然観察会が開かれている。宗谷暖流のおかげで最低気温は内陸部ほど下らない。風が弱い穏やかな日には、冬のサロベツならではの自然を見ることができる。



雪原のトレッキング



ケアシノスリ

雪の原野を楽しむ

厳冬のサロベツの気象はことのほか厳しい。吹雪が視界を閉ざし、風が巻き上げる雪のため、何も見えない日もある。

冬の原野を楽しむのは、春の兆しがかすかに感じられるころに時折訪れる、穏やかに晴れた日がいい。スノーシューやクロスカントリースキーを履いて原野を歩けば、雪の上に記された動物たちの足跡から、彼らの活動ぶりを知ることができる。冬を耐える植物たちのようすもわかる。冬を過ぎしに来たベニヒワやユキホオジロにも出合えるかもしれない。



クロスカントリーを楽しむ

雪晴れの利尻山を望む

雪晴れの利尻山は、夏とはまた異なる荘厳な姿である。サロベツの海岸線を通る道路からは、ぼっかい 抜海、ほまゆうち 浜勇知、わつかさかない 稚咲内ほかどこからでも利尻島が見える。抜海漁港ではゴマフアザ



ベニヒワ

ラシが観察できる。また、サロベツ原野にも、各所にビューポイントがある。お気に入りのポイントを探してみてもどうだろう。



雪晴れのサロベツ原野